

令和2年度「市長と語り合う会」について（安田地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和3年 1月25日（月）	安田公民館	19:00～20:00	8	10	18

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和2年度の当面の課題・状況

約1年前に施政方針をまとめたとき、以下の項目のうち最初の4点がぜひ実現したいこと、また最後の1点である新型コロナウイルスについては、状況を見ながらしっかり対応していくという思いでまとめた。しかし振り返ればコロナに始まりコロナに終わった、しかしコロナの問題はまだ終わっていないという、予想もできない状況だった。

・萩・石見空港

現在東京線の2往復が、1往復に減便されたり全く飛ばなかったりと厳しい状況にある。ただ昨年はこの2便を維持するための発着枠政策コンテスト審査の年であり、利用促進の提案が実り令和5年3月までの継続運航が決定した。またANAの運営もコロナのダメージを受けている中で、利用促進協議会において社員の派遣を受け入れ、航空需要発掘などの事業を担っていただくこととしている。

・山陰道

「益田～萩」のうち須子から小浜までの「益田西道路」新規事業化が、昨年度～今年度の山場であったが、無事決定した。三隅益田道路の開通時期は令和7年度と示されている。この開通時期についても少しでも早くなるように引き続き要望していく。さらに次の「小浜～田万川」の事業化についても積極的な要望を行っているところである。

・日本遺産とガーデンツーリズム

ストーリーとして発信でき、観光誘客ができる遺産を文化庁が認定する日本遺産に、市内の中世関連の史跡が、「中世日本の傑作益田を味わう～地方の時代に輝き再び」というストーリーのもと認定された。国の有利な補助がなされるので、上手く活用して地元の機運を盛り上げ、観光客が周遊できるコースを整備していきたい。また国交省が認定するガーデンツーリズムに、中国地方にある雪舟関連の庭園等を巡る計画が「雪舟回廊」として登録された。益田市には雪舟自身が作庭した庭園が二つもあるが、この他、岡山県総社市の宝福寺や山水長巻図を有する防府市の毛利博物館などで構成する。

・東京オリンピック・パラリンピック

残念ながら開催延期となり、事前キャンプも1年延期された。アイルランド自転車チームのホストタウンとしてキャンプを支え、選手と市民の交流、またその後も幅広い交流が続けられるよう考えていた。新型コロナの現状からは今年の開催も厳しく、また開催されても益田市でのキャンプが可能かどうか、また市民との交流も困難なのではないか等の問題はあがあるが、そうなった場合でもせっかくのアイルランドとの絆を大切に、同国のいずれかの都市等と友好都市などの関係

を作り、交流を継続していけるよう在日大使館とも連絡を取り合っている。

・新型コロナウイルス

結果的に今年度最大の課題となった。国の特別定額給付金給付では職員総出で対応したほか、緊急経済応援給付金や、感染予防の施設改修への支援などを独自予算や国の交付金を活用する形で行った。休校中の学習支援として、一人1台のタブレット購入契約も進めている。感染予防の注意喚起にも力を入れてきたが、昨年8月に1名、この1月にも4名の感染が判明した（1月25日現在）。誰もが罹る可能性のある感染症であり、感染者の人権に配慮する呼びかけも繰り返し行っている。これからの大仕事はワクチン接種であり、市では2月1日に新型コロナウイルス感染症予防接種対策室を設置し、同下旬頃から医療関係者、3月下旬頃から65歳以上の高齢者に、5～6月には一般の方に接種を予定している。製造社によりワクチンの性質も異なり、取り扱いには不透明な部分も多いが、少しでも早く多くの市民が接種により免疫を獲得できるよう取り組んでいきたい。

2. 連携の具体化と結実

市政の大きな考え方としてこのように掲げてきた。ここ数年「連携」という言葉を大事にしてやってきたが、その流れに基づく。

・SDGsに関する連携

SDGs（持続可能な開発目標）は2030年までに世界共通で達成することを目指した17の国際的目標で、2015年に国連で採択された。発展途上国向けの目標もあるが、日本にとって重要なものもあり、市の課題、地域の課題と捉えて様々な団体・個人とSDGsを介して連携していく。

・島根県との連携

空港や道路など、国への要望を県と一緒に進めている。また県では新たな観光テーマとして「美肌県しまね」を強く打ち出しているが、市もそれに連動して、美都・匹見の温泉やわさび・ゆずなど美肌効果のある食物についての発信を強化し、観光振興や地域づくりに結び付けていく。

・民との連携

地域づくりの面で地域自治組織と連携することはもちろん、地域住民の皆様や民間企業、様々な団体などと連携して、行政単独ではなかなか行き届かない諸課題に取り組んでいく。

間もなく令和3年度が始まるが、引き続き新型コロナウイルス対策が大きなテーマである。特にワクチン接種が始まるので、感染の心配を抑え込むことができれば、賑わいや経済、人と人のつながりも回復できる。令和2年度に上がった成果をコロナ後にしっかり結び付けられるように準備していきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 森林環境譲与税の活用について
- ② バイオマス発電について
- ③ 土地改良区について
- ④ 市議会議員の定数について
- ⑤ 風力発電計画について
- ⑥ 県との連携について
- ⑦ 企業誘致について
- ⑧ 自治会活動について
- ⑨ 地域自治組織の活動について

○ 閉会（秘書課長）

令和2年度「市長と語り合う会」

〔会場 安田公民館 開催日時：令和3年1月25日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 森林環境譲与税の活用について 森林保全の一環としてNPOでドングリの森事業に取り組んでいるが、県の予算が年々減少しており、植林のみで管理の予算がつかず、間伐が必要となる状況である。範囲は広がるが担い手は高齢化し、継続が困難になりつつある。森林環境譲与税を有効活用できないか。</p>	<p>① ご活動に感謝申し上げます。森林環境譲与税についてはまず基金に積み、使い道を検討することとしている。ドングリの森関係事業に使うことも可能性として考えられるので、持ち帰り検討させていただく。</p>
<p>② バイオマス発電について 今後、間伐材が多く発生する中で、バイオマス発電を進める計画はないか。カーボンニュートラルを考えていく中で重要になると思う。</p>	<p>② 県内では2カ所のバイオマス発電所があり、西部は江津市にあるが、実は益田市産のチップを最も多く使っているとのこと。増設は考えにくく、いかに益田市産チップの維持拡大をするかが重要になる。間伐材をここに充てることも検討に値すると思う。</p>
<p>③ 土地改良区について 土地改良区の決算報告がきちんとされていない。市の広報に載せるなどして、各戸に伝わるようにすべきではないか。</p>	<p>③ 地区ごとの総代が集まって総代会を行い、各役員も決められている。理事長は市長である。予算決算・事業計画など議事内容はすべてオープンである。総代が各地区で説明を尽くすべきであろうと考える。市と改良区は別団体なので市広報の活用は難しいが、方法を検討する。</p>
<p>④ 市議会議員の定数について 多すぎると思う。安来や浜田は減らしている。同じ規模の他自治体と比べても多い。</p>	<p>④ 4名減から6年経った。昨年の市長選で新たな定数減を市議会に投げかけると述べたところであり、9月議会一般質問でそのことをお話した。市長と議会は対等であり強権的には言えないが、行政改革を進める中では議会にも応分の協力をいただくべきであるし、しっかり議論してほしいと考えている。ただ他自治体との比較では、人口のみで同列に語ることはできないと考える。</p>
<p>⑤ 風力発電計画について 道川に施設の建設計画があるが、山の環境破壊につながる。森林を守る国の事業とも逆行する。市として反対してほしい。</p>	<p>⑤ 先日「高津川の自然を守る会」からも要望を受けた。政府のCO2削減方針などもあり、風力のほか水力、太陽光、潮力などへの切り換えを考えていく必要があるが、自然を守るための開発で自然を壊すことは避けなければならない。行政の立場としては経産省・環境省に対し県・市として地元の声に耳を傾けるよう働きかけていきたい。</p>
<p>⑥ 県との連携について 市長主導で進めてほしい。</p>	<p>⑥ 今日お話した事業もほとんどが県との連携で進めており、航空路線維持、山陰道建設など県にも特に力を入れていただいている。コロナ対策に係る調査はほぼ県（保健所）が行うが、市民に対する公表範囲など、県市で議論して進めている。感染経路の詳細な公表を求める声もあるが、一方でプライバシーを守らなければいけない。</p>

⑦ 企業誘致について
市長の考えを聞きたい。

⑧ 自治会活動について
満足にできていない。市の指導をしっかり
してほしい。

⑨ 地域自治組織の活動について
地域自治組織ができたが、一体的な活動がで
きていない。地域自治組織同士の連携なども
できていない。市は各組織を作って終わり
という印象を受ける。

⑦ 益田西道路のインターチェンジをファクト
リーパーク付近に作るよう要望してきたが、
希望通り決定した。長年新しい立地がなかつ
たが、カツデンアーキテック、都吹など立て
続けに決まり、現在進行中の話もある。道路
の進展で誘致にも拍車がかかるものと期待
している。

⑧ コロナで難しい時期だが、誰もがリモートで
何もかもできるわけではなく、活動の停滞を
招いていると考える。11月に出したニュー
ノーマル宣言も、その後第3波を受けて修正
を余儀なくされている。

⑨ 間もなく全地区で地域自治組織が整備され
る。成功事例は各地区で共有していただき
たい。そのために市が働きかけて機会を作
っていきたいと考える。